

青谷かみじち遺跡

NEWS

Vol. **12**
2019 Autumn

発行: とっとり弥生の王国推進課
青谷上寺地遺跡整備室
〒689-0952
鳥取市青谷町青谷 667
鳥取市青谷町総合支所 2F
電話 0857-85-5011



こんにちは。
青谷上寺地遺跡整備室です。

青谷上寺地遺跡から出土した琴です。底板と側板に柄という溝を掘り、その溝に板をはめ込んで箱型にしていたことがわかっています。残念ながら弦は残っていませんでしたが、弥生人はどんな音楽をかなでていたのでしょうか。

古代の音色を復元

前編



今回と次回の青谷かみじち遺跡ニュースでは、古代の音色を復元と題して、復元琴の話題をとりあげます。青谷上寺地遺跡整備室では職員が製作した復元琴をイベントで演奏して楽しんでいただいています。そもそも、弥生時代の琴を復元するきっかけは、発砲スチロール板と厚紙で青谷上寺地遺跡から出土した琴の復元品をつくる子ども向けの体験活動を行ったところ、音も出せると好評だったことです。その後、幅広い年齢層の方が楽しみながら地域の遺跡や歴史に興味をもつきっかけになればと、出土品にできるだけ忠実かつ気軽にさわって弾ける琴の復元品を作りました。

琴作りでは、例えば弦を結ぶ櫛の歯状の突起をつけるにはノミがあると非常に便利だとか、作業に適した道具の必要性を痛感しました。青谷上寺地遺跡からはノミなどのいろいろな鉄製の道具が出土しているの、琴も作りやすかったと思います。

また、なんとか琴の形を作ることができて、音を出せるようにするのはさら



復元した琴を演奏している様子
(鳥取県埋蔵文化財センター古代まつり)

に大変でした。弦が残った状態で出土した例がないため、専門書や、数少ない古代琴の復元例なども参考にしながら弦を張り調弦をする方法を考えました。弥生時代の方法とは違う部分もありますが、手軽に楽しんでいただけるようにこの部分は遊び心をもって作りしています。

復元した琴の音色はとても優しく、良い音色でみなさんに驚かれます。調弦した復元琴の音色は、琴線にふれるという言葉があるように、本当に人の心に響くものがあり、古代琴がまつりの場で用いられたということにも納得できます。

(以下、次号につづく)

重要文化財指定記念講演会

「魅力発見！弥生のブランド」を開催しました。

去る9月14日(土)に、青谷上寺地遺跡の重要文化財指定を担当した、文化庁の横須賀倫達文化財調査官をおむかえし、講演と対談を行いました。130名の方々に受講いただき、青谷上寺地遺跡を含む県内外の重要文化財の紹介や、現代の工芸品との対比などを通して、青谷上寺地遺跡の魅力と価値について、議論を深めることができました。



横須賀調査官の講演

対談の様子